

第 23 回 NEW HORIZON FOR NEUROSCIENCES

医療法人水明会佐潟荘 医局

12月3日(土)、第23回 New Horizon for Neurosciences (場所：東京コンベンションホール、共催：富士フィルム RI ファーマ株式会社) に、当院の北村医師が参加しました。テーマ「ここまでわかった精神疾患の画像」のもと、各分野のエキスパートによる講演を半日で一気に聴講できたことは、たいへん効率的かつ有意義でした。基調講演は『精神機能の脳内メカニズム』（須原哲也先生）、教育講演は『うつ・不安』（飯高哲也先生）、指名講演 1 は『情動的意思決定とその障害：依存症を中心に』（高橋英彦先生）、指名講演 2 は『セネストパチーにまつわる脳画像所見』（根本清貴先生）、指名講演 3 は『てんかんの精神症状と脳画像』（曾根大地先生）でした。放射線医学総合研究所の須原先生の研究手法の先進性には、只々驚くばかりでしたが、個人的には、筑波大学の根本先生の発表が大変興味深かったです。セネストパチーは、症候学的に幻覚とも妄想とも定めがたい奇妙でややグロテスクな体感異常や身体認知を言いますが、機能的幻聴と類似した知覚情報処理の異常が、SPECT の局所脳血流の減少だけでなく、増加所見として反映されている可能性が示唆されました。神経画像技術がさらに進歩して、機能的精神疾患の臨床に日常的に利用できる時代の到来が待ち遠しいです。